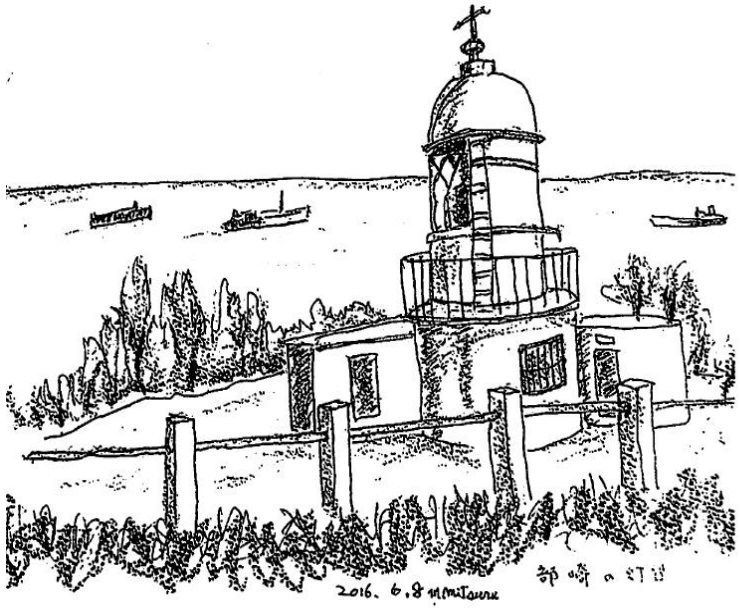
週報２０２１年１０月３１日



2021年教会標語聖句

見よ。わたしは新しい事をする。
今、もうそれが起ころうとしている。

イザヤ書４３章１９節

シオン教会信仰指標：“イエス様と共に歩む”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

http://jesus.holy.jp/

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276

礼拝順序 2021 年１０月３１日

ピアノ：赤松眞佐子 姉　オルガン：力丸勝子 師

司会　石田紘一郎 兄　メッセージ　山崎銀次郎牧師

祈祷	開会の祈り
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和
賛美	新聖歌　216「ここに真の愛あり」
祈祷	＊今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！＊
祈祷	献身の祈り
賛美	新聖歌　221「ああ主の瞳」
賛美	コーラス 5「さあ主にささげよう」
聖書朗読	エペソ人への手紙 2 章 1－6 節
説教題	「恵みの中を生きる」
祈祷	御言葉の応答の祈り
頌栄	「主の祈り」
祈祷	祝福と派遣の祈り

交わりの三省

＊互いに愛し合っていますか

＊互いに赦し合っていますか

＊互いに祈りあってますか

説教要約

エペソ人への手紙２章１－６節
「恵みの中を生きる」

①導入「疎外される事は怖くない」

無視するという行為が始まったのは、なんと石器時代からだそうです。この時代は集団行動が始まった時代でもあります。男性は主に狩りをし、女性は主に木の実などを採取し生活をしていました。そこで、何の仕事にも加わらず、収穫物だけを食べる人が出て来ました。当時の無視とは集団行動に危害を及ぼす人への制裁でした。つまり、命がけで収穫物を得る人への冒涜や足を引っ張る行為の罰として集団から追放するのです。

これに対して現代の無視は心の暴力と言われています。集団行動の中で（主にリーダーの）価値観や意見にそぐわない人を標的にして、（主にリーダーから）無視と言う行為を集団の中で浸透させ集団から追い出そうとします。石器時代の無視は命を守る為の行為で、現代の無視は標的にした人の心を踏みにじり、そして心の快楽を得る、命の搾取と言われています。

この石器時代と現代の無視について言及した人は結論として、現代の無視は「全く気にするに値しない」と断言しました。何故なら、現代において命がけで生きている人への危害を及ぼし、冒涜している人はこの話で言う集団で無視する方だからです。続けてこの人が言いました。「本当に勇敢で強い人はそのような集団生活の中で一生懸命生きているあなたです。」今日の箇所、エペソの手紙の中で出てくる共同体生（クリスチャン）はある一定の人達に疎外されていました。パウロは手紙で彼らを励ました。そのような中で勇敢に生きる為に必要な事は「神の恵みによって生きる事です」と。

②本論「恵みの中を生きる」

エペソのクリスチャンはある事を恐れていました。それは、彼らが大胆にイエス・キリストは神だと告白すると、町の人々に標的にされ街を追い出される危険性の事です。エペソの人々は信仰生活で神に信頼する事と、あきらめて堕落する狭間で葛藤していました。そのようなプレッシャーに耐えきる事が出来ない幾人かのクリスチャンは背教しました。ある人達は又元の、偶像崇拝や魔術の力に依存していきました。パウロが手紙で励ましたかったことは不従順の子として生きるのではなく、恵みの子として神に従順に生きる事です。

パウロは、信仰を持つ以前のエペソの人々が不従順の子として生活していた事を言及しました。しかしそれは、エペソのクリスチャン達を「またここに戻るのか！」と叱責する為ではなく、もう一度今いる場所を強調する為です。スポットライトを当てると、暗い部分と光の部分がくっきり浮かび上がるのと同じです。パウロが強調したことは「あなたは一方的な恵みによって神の子とされた」と言う事です。この恵みを受けるに条件は必要ないとパウロは強調しています。

「あなたは恵みの只中にいます」これがパウロの強調点です。神の恵みは従順な人に降り注がれるのではありません。変わらない恵みがいつも注がれています。スポットライトの様に神の恵みに照らされ続けている人生を知る時、人おのずと従順になります。パウロは信仰者が通って行く人生の孤独、不安、無気力、そして葛藤を知った上で読み手に自分の意志を持って、今いる場所を告白する事を願っています。それが「恵みの中を生きる」と言う事です。

③結論「私達はマイクとスピーカー」

マイクは音を拾う機械、そしてスピーカーはその拾った音を増幅させる機械です。つまり声や音はマイクを通っただけでは大きくなりません。スピーカーを通って大きくなり、会場にいる大勢の人に声や音楽を届ける事が出来ます。私達教会の役割はこの“マイクとスピーカー”です。

つまり、大切な事は誰の声を“拾うか”なのです。神の声に反する声が上から聞こえてきます。そしてその声について行った人々が「そのままでは世の中で孤立するので、神様から離れるように」とプレッシャーをかけます。その声に従うと一時的な欲求や肉体の満たしはもたらしますが、魂の孤独は満たされません。つまり内なる恵みの力を信じない人は、人の心の中心を満たす声を届ける事も出来ません。

私達は神の恵みを通すマイクであり、スピーカーです。神に対する信頼によって恵みは私達の“内側”を伝って増し加わって行きます。私達一人一人が神の子、恵みの子です。一人で世に立ち向かうのではなく、恵みによって内側が強くされた一人一人から放たれる賛美と祈りと御言葉が声になり、生き方が証しになるのです。恵みにとどまり続ける者となって、大きな証ではなく、自分が受けた恵みをそのまま証してまいりましょう。